

第58回 ふじみ衛生組合地元協議会 会議録

- 1 開催日時 平成31年3月11日(月)18時30分から20時00分まで
- 2 開催場所 クリーンプラザふじみ3階研修ホール
- 3 委員出欠 出席 22人(欠席者6人)
出席委員 佐々木善信(会長)、小林義明(副会長)、浅野秀美、石坂卓也、宍戸義夫、島田猛、鈴木和夫、武谷宏二、田中一枝、戸田朝子、長瀬輝夫、牧野隆男、増田雅則、矢田部正丈、山添登、山田攻、山田知英美、荻原正樹(副会長)、上野洋樹、大野憲一、岡田賢一郎、宮崎治
(名前の表示は、正副会長を除き、選出区分別50音順)
事務局 今村好一、岩崎誠、大堀和彦、篁健二
エコサービスふじみ株式会社 久保寺高広
パシフィックコンサルタンツ株式会社 吉留雅俊
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 報告事項
 - (1) 平成30年度ごみ処理相互支援結果について
 - (2) 水銀回収キャンペーンについて
 - (3) 第6回ふじみまつり報告について
 - (4) リサイクルセンター更新検討について
 - 3 協議事項
 - (1) 平成31年度地元協議会スケジュール(案)について
 - (2) 平成31年度施設見学会について
 - (3) 第7回ふじみまつりにについて
 - 4 その他
 - (1) 次回日程(平成31年5月13日(月曜日))
 - (2) その他
 - 5 閉会

配布資料

- 【資料1】 平成30年度ごみ処理相互支援量
- 【資料2】 水銀回収キャンペーンについて
- 【資料3】 リサイクルセンター更新検討について
- 【資料4】 平成31年度地元協議会スケジュール(案)
- 【資料5】 平成31年度施設見学会候補地

第58回 ふじみ衛生組合地元協議会

平成31年 3月11日

【事務局】

それでは、定刻になりましたので、第58回ふじみ衛生組合地元協議会を開催いたします。皆様には、お忙しい中ご出席をいただきまして、ありがとうございます。

それでは、本日の資料でございますが、次第にあります資料番号のとおり、事前に配付させていただきました。あと、ふじみ衛生組合の三調日より、3月に出したのも置いてありますので、ご確認、よろしく願いいたします。資料はおそろいでしょうか。よろしいですか。それでは、今後の議事進行は会長にお願いいたします。よろしく願いします。

【会長】

皆さん、こんばんは。それでは、ここから私が進行をさせていただきます。皆さん、ひとつよろしく願いいたします。

本日は、合計20名の委員の方にご参加いただいておりますので、このまま会議を進行させていただきます。

前回、私が提案した新たな交流事業について、先般、A委員に交流委員になっていただくことを皆さんにご承認いただきました。先般、ご都合で欠席されましたので、本日、ご挨拶をいただきます。

【A委員】

私と三鷹の坂本さんと一緒に、交流委員を楽しんで引き受けさせていただきたいと思っております。よろしく願いします。

今年は平成が間もなく終わりますね。平成という時代も終わりかなと思いつつながら、この協議会が平成25年に設置されてから6年たったかなと。それで、1つの思いを考えていました。平成25年当時を思い出して、あそこに小林会長もいますけれども、あのときの我々は、安全、安心、交流という3つの目的で、平成25年に協議会が、始まったのだなというぐあいに思い起こしておりました。

安全・安心というのは、正副管理者がここに来るたびに安全・安心と言われていましたから、我々も頭に入っていたのです。安全・安心の施設をつくろうと。これは僕らの最大、全てのテーマだったと思っております。それに関しては、水銀の問題が起きたので、ほんとうに安全・安心が試されたんだと。私は、ふじみ衛生組合や地元協議会の皆さんがして、水銀にほんとうに適切に対処していったなと思っております。対応マニュアルを直ちにつくって、それでも起きた、じゃあ、今度はキャンペーンだ。適切なキャンペーンをやり、それでも起きたら、施設を改善していくという方向で、我々は安全・安心の施設というぐあいに思ってきたと思っております。

それからもう一つですが、交流ということは、今の時点で僕らが言う交流とは

最初は若干違ったんです。それは、三鷹の方はご存じかわからないけれども、調布地域はここに施設が来ることをものすごく反対したのです。荻原さんは、三鷹の人ですからわかると思うのですが、猛烈に反対したのです。そういうことがあった後に平成25年が始まったわけですね。だから、この施設と、直近の、つまり、我々との交流というのが最初は交流の意味だったのです。そのためにふじみまつりをつくったのですよ。今は増田さんが中心にやられている花壇ボランティアも、まさにそういう流れの中にあった。今はもう正直言って、我々との交流という意味を超えたようにふじみまつりは大きくなってきて、今年は3,000名を超えたのですか。ふじみまつりを通して、交流が地域から両市に広がっていく勢いを示しているのではないかなと。

そこに立って考えるときに、交流という意味も変わってきたのではないかなと。もう少し、我々はここに、この施設は三鷹と調布の真ん中に建っているのだから、両市の交流のためにこの施設を利用していかなきゃならないのではないかなという思いをずっと持っていました。そういう意味で、交流委員を坂本さんと引き受けようかなと思いました。坂本さんは三鷹の連雀コミセンの役員をされている方です。囲碁をやっている。そういうことで、頭の中にあることは、坂本さんとよく話すのですが、深大寺地域と下連雀地域の囲碁自慢が集まってくるだけじゃなくて、調布と三鷹のもっとすごい、ほんとうの囲碁をするような対抗をやったらおもしろいのではないかとちょっと話したんですよ。

しかしながら、でき上がった人間をただ連れて集めてきてここで囲碁をやるだけじゃ、ほんとうの交流になるのかなというように2人で話し始めて、できたら、小学生の囲碁大会をやりたい。大人ではないのですよ、小学生ですよ。未来、希望を持った子供たちの大会ができないか。今、これをやりたいというのが僕の希望です。

これは、ほんとうに簡単じゃないのですね。だって、皆さんの周りに小学生で囲碁をやっている人がいますか。サッカーとか野球はいっぱいいますよ。でも、いないじゃないですか。だから、そこから始めて、初めてクリーンプラザふじみで開けるわけです。もしできたら、すぐいっぱいになりますよ。小学生には必ず保護者が来なければいけないのです。だから、子供の数だけお父さん、お母さんが来るわけです。しかも、若い人ですよ。そういう人たちがやってくるわけです。その人たちが三鷹と調布のほんとうにいろいろなところから集まってきて、ここで囲碁をやっていただくことによって、意識しないでこの施設を見てもらう、そのことが両市への交流の、またここから、この施設はただごみを燃やすだけじゃないよと、こういう文化も発信しているところを見せたいというのが私の今の願いなのです。これは簡単にできないと思いますので、皆様、ぜひお知恵をお貸しいただきたいと思います。

それもいつできるか全くわからないのですが、一応、目安としては2年ぐらいと思っているんですよ。2年というのは、なぜ2年かというと、あそこに座っている荻原さんがあと2年なのです。荻原さんをちょっと紹介しますと、私、増田さんと2人、二人三脚で、15年ぐらいこの施設にかかわっているわけです。ほ

んとうに二人三脚でやってきた。そこで思い出すのは、ほんとうにいろいろな人が回り灯籠のようにあらわれては消え、あらわれては消えていったのですよ。その中で、ただ1人、ずっと15年間いた人がいるのですよ。たった1人ですよ。その方が荻原さんなのです。彼はふじみ衛生組合の歴史なのですよ。でも、永遠じゃないですよ。幾ら15年いたって、あと2年しか。やっぱり我々と同じサラリーマンですから、いずれは定年退職が来るわけです。だから、歴史がある間に…、いや、いろいろ彼には思い出があるので、できたらやりたいなと思ってますけれども、かなり無理じゃないかと。そこからやらなきゃ、つまり、やる人がいないと集まらないじゃないですか。そんなふうに思っています。

どうか皆様、よろしくお願ひします。以上です。(拍手)

【 会 長 】

大変熱い説明をいただきまして、何となく着ているものだけじゃなくて、体が熱くなったような気がいたしますけれども、それでは、議題のほうに進ませていただきます。

報告事項の第1番目、ふじみ衛生組合・武蔵野市ごみ処理相互支援量についての説明、事務局からお願いします。

【 事 務 局 】

資料の一番最初、1ページでございます。

この相互支援というのは、武蔵野市とふじみ衛生組合、それぞれ焼却炉の定期点検を行っていますが、お互いの可燃ごみの受け入れをその間、行っているものです。おおむね年間600トンを双方で受け入れております。なお、緊急受け入れを行ったときは、その次の回等で調整し、年間600トンとしていますが、なかなかうまくいかないときもございます。平成30年度、武蔵野市からの緊急受け入れがあったため、回数としては4回、受け入れを行っております。合計で605.29トン。武蔵野からふじみへ来た分がそれだけでございます。それから、ふじみ衛生組合から武蔵野に持っていった分ですが、600.94トンでございます。事前に計量して持っていくわけではございませんので、数十キロ単位での誤差はどうしても生じております。

一番下のところに次の予定を入れてございます。平成31年度の予定でございますが、武蔵野市から緊急受け入れを行っている関係で、5月に受け入れるところで調整を行っております。年間で、現段階では武蔵野市から557トン強、ふじみ衛生組合から武蔵野市が600トン、お互いに受け入れを行う予定でございます。以上でございます。

【 会 長 】

ありがとうございます。

今のご説明で質問ございましたら、ご意見お願ひいたします。

ないようでしたら、報告事項2番目、水銀回収キャンペーンについて、B委員 から説明をお願ひいたします。

【 B 委 員 】

冒頭、A委員 からもご紹介がありましたが、私からは、水銀回収キャンペー

ンについて報告させていただきます。2ページの資料2をごらんいただけますでしょうか。前々回の地元協議会でご報告させていただいたとおり、大掃除の機会が多いと考えられます12月1日から28日まで、体温計などの水銀含有製品の回収キャンペーンを実施いたしました。本日はその結果報告でございます。

回収につきましては、三鷹市内、調布市内の薬局・薬店114店舗、公共施設27カ所の計141カ所にて回収ボックスを設置いたしまして、三鷹市、調布市、両市で回収を行い、回収した水銀含有製品につきましては、当組合が処理業者に引き渡す方法で実施をいたしました。

その結果、下のほうの2の回収実績にもございますとおり、水銀体温計が210本、水銀温度計が16本、水銀血圧計20本、容器に入った水銀2点の合計248点、こちら、水銀の推定重量として約1.4キログラムの回収をすることができました。

また、下のほうに書いてございますけれども、先行実施した第6回ふじみまつりにおきましても、容器に入った水銀1点を含みます計8点を回収することができました。この中でも、焼却炉停止の原因になると考えられます容器入りの水銀を回収できたことは組合にとっても大きな成果であると考えております。

今後も定期的に啓発活動に努めるとともに、搬入物検査を実施するなど、三鷹市、調布市と連携して、水銀含有廃棄物の搬入防止に引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

【 会 長 】

ありがとうございます。

ただいまの説明でご質問ございましたら、お願いいたします。

C委員。

【 C 委 員 】

済みません。ちょっと疑問なんですけれども、容器に入った水銀というのは、一体どういうものになるのでしょうか。

【 B 委 員 】

実際にこのくらいの小瓶に水銀が入っておりまして、今回で言えば3本見つかったのですけれども、どうやら話に聞くと、出した方から今回、直接聞けたわけではないんですが、水銀というのは普通だと玉のようできれいで銀色をしていますね。昔の方々は非常に貴重なものだったのではないかとということで、体温計が割れたら瓶に入れたり、そういったお話を以前聞いたことがございます。

あとは、工業用のメッキ工場ですとかで、そういったところで水銀を昔使っていたと聞いております。

【 会 長 】

ちなみに、この水銀キャンペーンですけれども、うちの住宅で毎月1回、住宅の中の掃除を自主的にやっているのですが、その月1回の掃除日に、このキャンペーンは終わっているのですが、自主的に皆さんから出してもらうということで、2カ月間、まだほんのわずかし集まらないのですけれども、やっています。一定量集まったら、私は市のほうに相談しようかなと思っているのですが、中に

は昔の大きな温度計、捨てるのがもったいない、歴史のあるようなやつが出てきたりしてしまっていて、ごみに出すのはもったいないかなど。これからも、うちは掃除日にずっと続けてやろうということになっているので、住宅のPRになってしまいましたが、一応お知らせしておきます。

それでは、次にリサイクルセンターの更新検討について、今日のメインテーマになるかと思しますので、D委員、お願いします。

【 D 委員 】

それでは、お手元の資料4ページの資料3をお願いいたします。4ページでございます。3ページは後ほどご説明させていただきますので、最初に4ページをごらんいただきたいと思えます。

「リサイクルセンターの更新検討について」ご報告いたします。前回の地元協議会におきまして、4ページ、5ページの表についてご説明しましたが、リサイクルセンターの更新につきましては、基本的に3案が考えられます。A案は、図にありますように、赤色のリサイクルセンター中央棟の既存建屋を利用して、内部の設備を更新する案でございます。B案は、A案とは異なり、中央棟について、内部の設備のみでなく、建屋も含めて更新する案でございます。C案は、B案の図で赤色の中央棟のほか、中央棟の上に斜線が引かれている建屋の北棟及び中央棟の右に斜線が引かれている建屋の東棟も含めたリサイクルセンターの3棟全てを広く更新する案でございます。

このうち、A案につきましては、中央棟に貯留槽を設置することができず、プラスチックの必要貯留量の保管場所の確保が困難であること、プラスチック処理について2ラインしか設置できないために、処理量の増及び品質の向上が図れないこと、そして、設備の更新後、近い将来に建屋の更新が再度必要となることなど課題が多く、本日はB案及びC案について、経費を加味したご報告をいたします。

それでは、6ページをお願いいたします。B案の赤色の中央棟のみを建替えて更新する案ですが、工事期間中に中央棟が使用できなくなることから、その間のごみ種目ごとの処理方法によりまして、さらに3案が考えられます。

最初に、B案1の図をごらんください。緑色の北棟及び東棟は工事期間中もごみ処理に使用できまして、例えば北棟に丸ぺと記載されておりますのは、ここでペットボトルのごみ処理を行うという意味でございます。また、図の左側に水色で表示した場所がありますが、これはふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設にごみを搬送するために、収集したごみを保管し、大型車両に積替えを行う施設でございます。そのうち、下の暫定南と記載された施設では、B案、C案、いずれの案につきましても、丸不と記載された不燃ごみについて保管積替えを行い、ふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設に搬送してごみ処理を行います。

そして、B案の場合は、リサイクルセンターの赤色の中央棟が工事となりますので、緑色の北棟及び東棟で何の種目のごみを処理するのか、暫定北棟、暫定南棟で何の種目のごみを保管し、大型車に積替えて、ふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設に搬送してごみ処理を行うのかの選択となります。

そこで、図の下のごみ種目ごとのごみ処理の仕方をまとめた白丸、三角、赤丸が記載されている行をごらんください。プラスチックの欄に、B案1、2、3で、それぞれ白丸、三角、赤丸が記載されておりますが、B案1、2、3の一番大きな相違は、B案1のようにプラスチックごみをふじみ衛生組合に搬入して保管し、大型車に積替えた後、ふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設に搬送してプラスチックのごみ処理を委託するのか、B案2のように、プラスチックごみについては、収集した後、ふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設に直送してごみ処理を委託するのか、B案3のように、プラスチックごみはふじみ衛生組合で焼却して処理をするのかという点でございます。

続きまして、8ページをお願いいたします。C案についてご説明いたします。C案は、先ほどご説明しましたように、緑色の北棟及び東棟も含めてリサイクルセンターの3棟全てを広く更新する案でございます。

C案1、2、3の違いは、第一に、真ん中の行のプラスチックの欄に白丸、赤丸が記載されていますが、C案1のようにプラスチックごみをふじみ衛生組合へ搬入して保管し、大型車に積替えを行い、ふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設に搬送してごみ処理を委託するのか、C案2、3のようにふじみ衛生組合で焼却処理をするのかという点、第2に、ペットボトルの欄に記載がありますように、C案は工事期間中に北棟及び東棟が使えませんが、C案1、2のようにペットボトルのごみをふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設に直送してごみ処理を委託するのか、C案3のように、ペットボトルのごみについてもふじみ衛生組合で焼却処理をするのかという点、第3に、瓶・缶についても同様に、C案1のようにふじみ衛生組合以外のごみ処理施設に直送してごみ処理を委託するのか、C案2、3のように、ふじみ衛生組合で保管し、大型車に積替えして搬送し、ふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設にごみ処理を委託するのかという点でございます。

以上のようなごみ種目ごとのごみ処理の仕方の組み合わせによりまして、経費が異なってまいります。

続きまして、各案の経費についてご説明いたします。

C案1の下を表をごらんください。一番上の「新リサイクルセンター建設費」につきましては、現在のところ、施設の内容がまだ決まっておりませんので、B案、C案のいずれの案につきましても暫定で70億円と記載しております。

次の「保管積替施設建設費」でございますが、C案1の図の青色の部分のように、暫定北、暫定南の2棟の保管積替え施設を建設するものは5億円、7ページのB案2、3のように暫定南のみ1棟を建設するものは2億円としております。

次の「保管積替処理等委託料」は、ふじみ衛生組合内でのごみの保管積替え処理に係る委託料でございます。B案に比べてC案では、ふじみ衛生組合以外の他のごみ処理施設へ直送するごみの品目や焼却処理をする品目が多く、B案に比べて保管積替処理をするごみの品目が減ることを考慮し、3年間分の暫定でB案は6億円、C案は3億円としております。

次の「工事期間中外部でのごみ処理経費」でございますが、工事期間中、ふじ

み衛生組合以外のごみ処理施設にごみ処理を委託した場合の3年間の委託料でございます。例えばプラスチックやペットボトルについて焼却処理を選択しますと、外部施設での処理委託料がなくなりますので、その分、委託料の合計が低くなっています。各案のごみ種目ごとの委託料の合計をその右の列に記載しております。

次に、その下の「工事期間中収集運搬増加経費」でございますが、ふじみ衛生組合以外のごみ処理施設に搬送してごみ処理を行う際に発生する収集運搬費の増加分につきまして、3年間分を記載しております。

下から2行目に経費の合計額を記載していますが、さらに一番下の行にもっとも経費の少ないB案3と比較した差額を記載しています。

最後に3ページをお願いいたします。「更新施設の施設規模及び工事期間中の保管積替え必要面積」についてご説明いたします。

保管積替え施設は、先ほどご説明しましたように、リサイクルセンターの図の左側に水色の暫定北、暫定南と記載された施設でございますが、ごみ収集車によりふじみ衛生組合に搬入されたごみを保管して、大型車両に積替えをして、ふじみ衛生組合以外のごみ処理施設に搬出するための施設でございます。

更新施設の施設規模及び工事期間中の保管積替え必要面積の算出方法ですが、まず、1番に記載されていますとおり、1人1日当たりごみの排出量から各市の将来人口推計を考慮しまして、将来のごみ量を推計いたします。次に、この将来推計ごみ量から、2番に記載の新施設の必要施設規模及び3番に記載の保管積替えに要する面積を算出しています。3番の保管積替え施設につきましては、一番下の参考の箇所に記載しておりますが、暫定北施設につきましては1,100㎡、暫定南施設につきましては700㎡を確保することは可能でございますので、3番にありますように、B案、C案のいずれの案によりましても、2日分の保管積替えが可能です。ただし、プラスチックにつきましては、暫定北施設の面積では1.1日分の保管積替えしかできませんので、日々の運営での工夫が求められます。

「リサイクルセンターの更新検討について」のご報告は以上でございますが、課題につきましては、今後とも、議会及び地元協議会の皆様にご報告をさせていただきながら、三鷹市及び調布市と協議を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

【 会 長 】

ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明でご質問のある方、E委員。

【 E 委 員 】

まず、B案とC案の建設費なのですが、これは内容から考えて、その前に解体費なんかもこの中に当然含んでいるのですか。そうすると、B案とC案ではものすごく金額が変わるのですが、何で70億なのかと想っていたのです。これはまだまだ決まっていないということで、この金額からは比較できないというこ

とで考えてよろしいですね。

わかりました。

もう一つが、いわゆる工事期間中のごみ処理をどうするかということですが、1、2、3案あるのですが、我々の税金から使われるということを考えれば、3案をとらざるを得ないのではないかなという気はするのです。事務局もそのつもりで出されたのではないかと勝手に推定しているんですが、3案をとらざるを得ないのだろうなと思います。

私からは以上でございます。

【 F 副会長 】

まず、1点目のご質問でございますけれども、BもCも70億というのはどうなのかということですが、先ほど説明がございましたとおり、まだ施設の内容が固まっていないということと、近隣の自治体の事例で言いますと、ある程度広く敷地がありますと、そこに作業員の車を置いたり、資材を置くことができますが、極端に敷地が狭い場合にはそういったスペースがないために、土地を借りなければいけないということも想定されまして、そういった場合には、土地の借地費用も上乘せになるなど不確定要素が多々ございますので、現時点では両方とも70億と記載させていただいております。今後、具体的に施設の内容、工事の方法等が決まりましたら、さらに詳細を検討いたしまして、より精緻な値に変えていきたいと考えているところでございます。

【 会 長 】

ほかにご質問ございますか。C委員。

【 C 委 員 】

C案の3で、プラスチックとかペットボトルはふじみ衛生組合で焼却という案として出ているのですが、可燃ごみのほかにこれをプラスして焼却することですと、焼却の処理能力的には問題ないのでしょうか。

【 F 副会長 】

今、容器包装リサイクル法によりまして、リサイクルしているプラスチックがおおむね4,500トン、それから同様にペットボトルが千数百トンということで、合わせて6,000トン程度と推測されます。

現在、小金井市のごみが入っていますけれども、年間焼却量は7万トン程度ということでございまして、焼却施設をつくるときの1年間の計画処理量が7万7,300トンでございますので、ペットボトル、プラスチック、両方熱回収、焼却いたしたとしても、処理能力的には問題ございません。

【 会 長 】

ありがとうございます。

まだ今のところ暫定の数値というところでございますので、また精査が進んでいくところで正確な数値が入ってくると思いますので、今後継続してこの話は続くものと思いますが、ほかにご質問ございませんか。なければ、次の議題に進みますけれども。

【 G 委 員 】

ご説明の内容をお伺いしまして、やはり焦点はプラスチック類が大きなウエートを占めるのですけれども、ご説明をしていただきたいのは、C案の2案、3案、それからB案の3案、プラスチックの金額がゼロみたいになっているのですが、これはどういうことなんでしょうか。そこだけご説明をお願いします。

【 F 副会長 】

プラスチックの処理についてですけれども、まず、プラスチックを燃やさずに外部の施設に搬出したしまして処理をした場合には、当然のことながら処理経費がかかってまいります。それが3年間で10億5,000万円という金額でございまして、1年に直しますと3億5,000万円を予定しているところでございます。

一方、外部に出さずにクリーンプラザふじみで焼却、熱回収いたしますと、そういった経費は必要なくなりますので、その場合にはゼロになるということで、3年間のごみ処理経費について差が生じるものでございます。

【 G 委員 】

そうしますと、新聞紙上でも話題になっておりますけれども、プラスチックのもっと有効活用といいますか、広範囲なリサイクルという点でおきますと、プラスチックというのは、そういうものでリサイクルは難しいという内容になるのでしょうか。

以上です。

【 F 副会長 】

プラスチックにつきましては、現在、容器包装リサイクル法に基づきまして再生利用、リサイクルできているという状況でございますので、三鷹も調布も積極的なリサイクルに努めているところでございます。ただ、工事期間中については、10億円かけてそこまでする必要があるかどうか皆様のご意見を伺いたいというところでございまして、10億5,000万円かけても、徹底的にリサイクルしましょうということをおっしゃるのでしたら、そういう方向も考えなければいけませんし、工事期間中はやむを得ないよねという市民の皆様のご意見であれば、工事期間中に限って熱回収をさせていただくという選択肢もあろうかと考えているところでございます。

【 G 委員 】

済みません。そうしますと、今のお話では、工事期間中に限った処理、対応ということで、それ以降についての今後のプラスチックのあり方、処理の仕方というのは、まだまだこれからという問題になるのでしょうか。

以上です。

【 F 副会長 】

万一、工事期間後の処理についても熱回収ということであれば、それこそ新しいリサイクルセンターの施設規模にも大きく影響してまいりますので、今現在、私どもが考えているのは、あくまでも工事期間中のみということとございまして、その後についてはリサイクルするという前提にした案でございます。

【 G 委員 】

わかりました。

【 会 長 】

それでは、次に行きます。

それでは、平成31年度のスケジュールですね、お願いします。

【 事 務 局 】

資料の10ページをお開きいただけますでしょうか。地元協議会と安全衛生専門委員会のそれぞれの31年度の予定の案を掲載しております。地元協議会につきましては、5月、7月、11月、1月の4回の会議、それと施設見学会を考えております。ただし、本日のようなリサイクルセンターの随時の報告があり得ますが、それについては予定としては入れておりません。ご承知おきいただきたいと思います。

あともう一点は、下のほうに任期と書いてございますが、現在の委員の皆様任期が今年11月3日で満了いたします。ですから、8月から10月にかけて、また各自治会の会長さんに推薦をお願いする、あるいは公募の委員さんの募集を行うという事業がありまして、11月に新たに第6期となるかと思いますが、新たなメンバーでの協議会を発足するという段取りになるかと思っております。

以上でございます。

【 会 長 】

ありがとうございます。

ただいまの説明で何かご不明な点ございましたら、ご質問をお願いします。

なければ、施設見学について、事務局より説明させていただきます。お願いします。

【 事 務 局 】

続けて申しわけございません。6月に予定しております施設見学の案でございます。資料についてはレイアウトが若干違っておりますが、内容的には前回2月にお示ししたものと同一内容でございます。第1案の甲府・峡東地域ごみ処理施設事務組合と、第2案の川崎市王禅寺処理センターでございます。

大きな違いは可燃ごみの焼却方法でございます。甲府については溶融炉、溶かすほうですね。川崎についてはふじみと同様のストーカー炉でございます。また、パンフレットとホームページを見た限りですが、川崎についてはエコ暮らし環境館という市民向けの啓発施設があります。甲府についてはこのような施設がないように思えます。違いとしては以上2点があるかと思っております。

以上でございます。

【 会 長 】

詳細はカラーコピーのほうをごらんいただければ、読み取れる部分があるかと思っておりますが、準備の関係上、そろそろ行く場所を決めなければならないのですけれども、先ほども事務局からお話がありましたように、川崎のほうが当ふじみ施設と同方式の焼却炉となっている、それから場所も近いということですから、移動距離が短くて済むという、老体にむち打って見学に行くには近いほうがいいのではないかなとも思いますが、少し距離はありますけれども、山梨という選択肢もございます。

どちらかに決めたいと思うのですが。

【 E 委員 】

近さにもよるのですが、大事なのは、昨年もそうだったのですけれども、我々、一番の関心はリサイクルセンターですよね。したがって、それを観点に昨年も選んだのですが、今年もやっぱりそこを見たいと思うのですよね。私もこのパンフレットをいろいろ見たのですが、甲府のほうも王禅寺のほうも、基本的には同じような、例えば手選別もやっているようだし、ふじみで考えておられる施設ではないかと思うんですよね。

ただ、事務局のほうにお願いしたいのは、ふじみでどういうリサイクルシステムをとるかというのは、もう金額も出すぐらいですから、おぼろげに考えておられると思うのですよね。その方法が、このパンフレットだけじゃなしに、この2つの中でどちらが近いのだろうかというような観点から選んでもらえるとありがたいなと。どっちにしてもあまり変わらないというなら、会長が言われるように近いほうがいいので、事務局に、皆さん方が考えておられる新しいリサイクルセンターのイメージにどっちが合うのかということを知らせてもらえるとありがたいなと思います。

【 F 副会長 】

新しいリサイクルセンターのイメージということでご質問をいただいたのですが、実はこういった施設は、今、性能発注という発注方式がとられています。こういった品目について、このぐらいの処理能力があるものをつくってほしいということで、具体的な、例えば手で選別するのか、機械で選別するのかという点は、事業者提案というのが一般的でございます。したがって、例えば今、瓶については無色透明、茶色、その他の3色に分けているんですが、ふじみ衛生組合では人の手で3色に分けているわけですが、新しい施設では、それを赤外線センサーで3色に分けて、風力選別、風で飛ばして分けているというところもあります。ただ、そういった施設も結局は99%ぐらいの性能でございまして、残りの1%は結局手で分けているというようなお話も聞いていますので、そういった具体的な選別の手法については、事業者が決まるまで決まらない可能性もございまして、したがって、何を処理するかという点では、ふじみ衛生組合としても今日の施設規模のところにお示ししたとおりでございますので、そういった点では、どちらの施設を見ても、現時点ではそう大差はないのかなと考えているところでございます。

【 会長 】

よろしいですか、今の説明で。

私的には近いほうがいいかなと思っているのですけれども。

では、何となく雰囲気川崎ということでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【 会長 】

じゃ、川崎ということにさせていただきます。

それでは、続きまして、協議事項の3番目で、ふじみまつりにつきまして、

B委員 からお願いします。

【 B 委員 】

ふじみまつりでございますが、前回の地元協議会でご報告させていただいたとおり、昨年11月25日日曜日、第6回目となるふじみまつりを開催させていただきました。結果としては過去最高となります3,026人の皆様にご来場いただきました。

今年につきましても、ぜひ第7回目となりますふじみまつりを組合では実施させていただきたいと考えております。つきましては、今まで同様、地元協議会の皆様にも参加をしていただきまして、実行委員会方式にて開催したいと考えております。このことについて、皆様のご意見をまずはお聞かせいただきたい。

あと、あわせて、開催時期につきましても、例年同様、11月ごろということでこれから準備を進めたいと思っております。この開催時期につきましても、皆様のご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【 会 長 】

ありがとうございます。

ふじみまつりについて、ご意見、ご質問等ありましたら、お願いいたします。

【 G 委員 】

前にお話が出ましたフリーマーケットですね、何かそういう計画をされているというので、その件はどうなったのでしょうか。町会でも、ふじみまつりでそんなような傾向はあるというふうに話をしたのですが。

以上です。

【 会 長 】

次にしゃべろうと思っていたのですけれども、あわせ持って、私からお答えをします。

先般の協議会でいろいろお話をさせていただきましたが、意見をまとめ上げることができませんでしたので、その後の修正として、別個開催というのは取りやめまして、時期的な問題もあります。今年は特に前半が窮屈なスケジュールもあろうかと思っておりますので、今回は11月のふじみまつりの中で併合してやろうかなと。併合してやろうと考えたのは、まず初回なので、一度、許される共用スペースを使って、例えば建屋の廊下等のスペースを使って、雨にも関係なく、日差しにも関係ないスペースで、少し小規模で、この間は30組か40組というようなご提案をしたのですけれども、もっともっと小さく一度やってみるということで、そうすると、ふじみまつりの実行委員がもう少し質的に、内容的に、実行委員のほうはこれから調整、打ち合わせをしますけれども、そういうことで、ふじみまつり実行委員の中で統率できるような形でやっていく範囲ということにすれば、皆さん個々に対する新たなご負担が少なく済むのではないかなと考えまして、今、その辺で調整しているところでございます。そうすると、同じ開催時期であれば、広報の点におきましても同じタイミングでできるということもありますので、その成果を見た上で、来年度以降、どんなに拡大してやるか、それともこの方式でやるかという結果も出るのではないかと思いますので、交流を深める

意味での試金石として、新しいふじみまつりの側面を出すということもあろうかと思しますので、そのような形で今考えております。

それで、実行委員の中でも少し調整しながら、実行計画をまとめていきたいなと考えておりますので、前回まともらなかったことに対する回答としては、そういうことをご理解いただきたいと思っております。

何かこのことをご質問ございましたらお答えいたしますけれども、よろしいですか。

【 H副会長 】

話をふじみまつりのほうに戻しますと、その中でフリーマーケットも考えているのですが、時期的なものなのですが、三鷹市民駅伝と同日開催でなければ、人出のところ、3,000人を超えた人数がまた1,000人とかになっても困りますので、同日開催のほうがいいかなと思っております。

以上です。

【 会 長 】

多分これについては、皆さん、何となく流れで同時開催という流れになっていますので、人の流れも非常によろしいかと思うので、そういう方向性でよろしいですよ、例年どおりで。

【 A 委員 】

私も H副会長の言うとおりの同日開催がいいと思っておりますね。

それから、やり方も、さっき会長は実行委員会方式だという前提で話しているような言い方なので、当初、ふじみ衛生組合と我々との交流というところから始まっているわけですから、実行委員会方式をやっていただければなと思っております。よろしくをお願いします。

【 会 長 】

わかりました。実行委員のほうももうこれで7回目になりますので、少し新しい味も出していきたいなと思っております。そういう意味で、フリーマーケットは1つの題材になるのかならないのか、これが試金石になるかと思っておりますし、実行委員についても、これから調整いたしますけれども、少し新鮮味を出していきたいなと考えておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

それでは、ふじみまつり関連につきましては、ほかにご質問がなければ、その他に行きます。次の日程の前に何かほかにご質問。

【 E 委員 】

済みません。三鷹の駅伝の日はもう決まっているのですか。

【 B 委員 】

まだこれから。

【 E 委員 】

これからですか。わかりました。

【 会 長 】

決まっていないといっても、大体。

【 I 委員 】

そのあたりは、同じ時期くらいだろうとは思いますが、まだ確定してないという。

【 A 委員 】

前回、欠席しましたので、2日分しゃべらせてもらおうと思います。責任を感じていますので。

私、さっきリサイクルセンターの更新のお話を聞きながら思ったのですけれども、今日は東日本大震災の起こった日でありまして、その日に地元協議会がある。これは何かあるのではないかと勝手に思いながらいて、あの施設の更新の話聞いていたんですけれども、安心・安全というのは、施設が安心・安全なだけではなくて、三鷹、調布の周辺にいる我々にとってもこの施設が安全なものであると。ちょっと難しい言い方ですけれども。というのは、この施設の能力というのは、そういう大きな更新に伴って、我々住民にとって安心・安全の施設にもっとなり得るのではないかなと思って聞いていました。

例えば今日、電気という問題を考えると、北海道の震災のようなブラックアウトになっちゃえば、今日テレビでやっていたように、どうにもならないですね。例えば今、情報はほとんど携帯から入ってくると思うのですよ。だって、停電になるとテレビを見られませんか。そうすると、携帯の充電をするところがないといけない。そういうところに、例えばこの施設が我々地域の住民にとって果たしてもらえるのか、自家発電しているわけですから、そういったことを考えるのですね。

だから、お願いなのですけれども、荻原さんにこだわっていますけれども、2年間の間ぐらいに、地域にとってほんとうに安全・安心の施設であると。初め、僕らは反対しちゃったので申しわけないのですけれども、できたからには、違う考え方でやっていかなきゃいけないと。この施設は我々住民にとってほんとうに安全・安心の施設なんだというのは、施設がじゃなくて、そのものが我々にとって安全・安心なんだというぐらいに考えていただけないか。そういうために、何がこの施設でできるのかということ、チームをつくって研究していただけないかなと。

2年間にこだわりますけれども、そういうチームができましたら、ぜひこの中の希望がある方に入っていただけないか、そういう呼びかけをしていただけないか。一緒になってこの地域の安全・安心、連雀、深大寺地域の安全・安心というものを、隣の三鷹は防災センターがありますけれども、それとは別に考えていただけないか。調布地域としてはほんとうにお願いしたいという気持ちが強いです。

こういう話をするのも、今日はほんとうに震災の日なので、タイミングがよかったなと思いますけれども、今日1日、私はサンデー毎日なので、テレビをずっと見てきましたけれども、見ながら、そんなものをずっと感じていました。ぜひお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

【 F 副会長 】

今、A委員 のほうから、せっかくつくる施設なのだから、単にごみを処理す

るだけではなくて、災害対応等を含めて付加価値のある施設にしてほしいというご要望をいただいたところでございます。

私どもも、せっかक्तつくるのでしたら、単なるリサイクルセンターだけではなくて、住民の皆様にあされる、付加価値のある施設にしたいと思っています。今現在、すぐにといいわけにはまいませんけれども、ある程度、施設の方向性が定まった段階で、そういった付加価値、例えば災害対応、それから、今ちょっと課題となっていますのが、やはりふじみまつり、晴天であればいいのですが、雨が降ったときにどうするんだというような問題がございますので、新しいリサイクルセンターにふじみまつりで雨が降ったときの対応ができるような付加価値を求める等々、今後検討していかなければならないという課題は認識しておりますので、また皆様と一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【 会 長 】

ありがとうございます。

それでは、資料4のスケジュールですが。

【 事 務 局 】

日程でございます。

例年、年度明けの第1回につきましては、5月の連休明けの週にやっているんですが、今回、10連休というちょっと予想のつかない長期の期間なので、さらに1週先になってしまうのですが、5月13日月曜日、あるいは14日火曜日ではいかがかと思いますが、いかがでしょうか。

【 会 長 】

どなたか、次回スケジュール、10連休という非常に長い後の、多分、仕事復帰しても、いろいろ大変じゃないかなと思うのですけれども、実はもごもごしているのは、期末にいつも今までですと三調会をやっていたのです。大体3月、4月ぐらいで三調会というのをやっていて、懇親というか、やっていたのですが、今回は、次回のスケジュールが5月、それも連休明けというところで、それとほかの要素もちょっとありますよね、いろいろ日程が4月、5月と。そういうことで、関係方面との調整も必要かなと思いつつ、今日のところはなかなかはっきり言いづらいなということもあるのですけれども、そんなことは関係なく、5月の何日と決めちゃうのも1つの案なのですけれども、あとは、ずれるのであれば、もうちょっと暖かくなってという話も一部の声にはあるのですけれども、泡がおいしい時期と重なるのじゃないかなというのも案としてありかなと。三調会は今までやっていたことより少しおくらせるということも視野に入れながら、5月のスケジュールも考えたいなと思っております、とりとめがないのですけれども。

【 H副会長 】

会長、よろしいですか。

【 会 長 】

はい。

【 H副会長 】

三調会、やるやらないというのはあるのですけれども、5月に開催ということではなく、三調会を7月にずらしてもいいのかなと。この期の最後ということになりますので、それでもありかなと。60回という節目の会でございますので、そういうのを考慮に入れていただければと思います。

【 会 長 】

今、妙案が出たような気がいたします。今、 H副会長の案が非常に私もいいなと思ったものですから、三調会については7月にずらすということで、落ちついてやるという意味でも7月がいいのではないかなと。ただし、5月の協議会の日程だけは逆にはっきり決めなきゃいけないですよ。

今、日程案として挙がっているのは5月の13及び14、月曜日、火曜日の案があるのですが、いかがでしょう。2カ月先ですが。

では、5月の13、月曜日、だめな人。

1名。

じゃ、14、だめな人。

それでは、13の月曜日にだめな人が少なかったので、13の月曜日ということで開かせていただきます。ということで。

【 事務局 】

ありがとうございます。

【 会 長 】

三調会については、一応7月という予定で調整しますので、そのように心に入れておいていただきたい。

それでは、最後にその他のその他で何かございましたら。

ないようでしたら、これで地元協議会、閉会としたいと思います。本日はお疲れさまでした。ありがとうございました。